

北海道総合商事株式会社

北海道札幌市

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

『地域企業のための総合商社』

ロシアをはじめとする海外展開事業を通じてふるさとの経済活性化を目指す

- マイナス 50℃の永久凍土の地、ロシア・ヤクーツクで日本の技術を結集しトマト栽培に挑戦
- 北海道の野菜など地域ブランドをロシアに展開。魅力を伝える「場」づくりと販路開拓サポート
- 自らのプロジェクトで地域と海外を橋渡しする存在として、ロシアからアジア・世界へフィールドを拡大

企業基本情報

所在地	北海道札幌市中央区南3条西6丁目3-2
電話/FAX	011-232-1113/011-231-1118
URL	https://hkdc.co.jp/
代表者	代表取締役 天間 幸生
設立	2015年
資本金	10,000万円
従業員数	10人



生産性向上

需要獲得

担い手確保

会社概要

北海道銀行の社内ベンチャー企業として立ち上げた総合商社で、道内有力企業9社から出資を受け設立した。

ロシアをはじめとする海外ビジネスの豊富なノウハウと幅広いネットワークを活かし、代金回収や言葉の壁などの課題点を解決し、地域中小企業の海外展開支援を行う。

北海道内の様々な地域に眠る価値の高い商品を掘り起こし、海外における市場開拓から金融・決裁、物流までトータルでサポートする。



北海道総合商事株式会社
HOKKAIDO CORPORATION



企業ロゴと現地法人「ペガスHC」のオフィス

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶ 永久凍土の地でトマト栽培！ヤクーツクの温室プロジェクト

永久凍土のロシア・ヤクーツクは気温がマイナス 50℃以下になる極寒の地であり、冬の野菜供給は中国などの輸入品に頼るしかなく、安心・安全なトマトを現地栽培してほしいという現地政府からの要請で、北海道で培った温室栽培技術による「通年型温室プロジェクト」を提案。経験したことのない寒さと僅かな日射量、永久凍土での工事や栽培指導、流通網の構築など多くの困難を克服し、トマト栽培・販売に成功。



ロシア・ヤクーツクの温室施設（日中の様子）とトマト

▶▶▶ 地域ブランドをロシアへ！魅力をダイレクトに伝える場づくり

北海道の米やタマネギ、ジャガイモなどをロシア極東地方に輸出、大手スーパーでの販売などを通じて、地域ブランドの海外展開を推進している。また、海外での市場調査や販路開拓に取り組むための提供の場としてウラジオストク市内にアンテナショップを開設。

物流ルートやコストの調査、現地でのマーケティングなど地域中小企業のロシアでのビジネス展開をトータルで支援。地域・企業に密着した輸出支援を進め、着実な北海道ブランド確立に繋がっている。



アンテナショップ「まんぶく猫」（ロシア・ウラジオストク）

▶▶▶ ロシアからアジア・世界へフィールドを拡大

ロシアのプロジェクトで培ったノウハウを活かし、北海道型農業をアジアでモデル展開するため、2017年8月、ベトナムに合弁会社を設立。

ベトナムのダラット、クアンチ省で最先端の北海道型農業をモデル展開し、周辺のアジア地域へ北海道の安心・安全野菜を広げる予定。農業技術の交流のみならず、同時に農業資材・機器、北海道農産物の輸出も拡大を図り、現地栽培品との相乗効果を生み出す狙い。



ベトナムでの合弁会社設立